

友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2021 February No.6



第33回友の会史跡見学会 大信寺の磯野家墓所において(3ページに関連記

CONTENTS

友の会企画イベント

拓本を楽しむに参加して 2

第33回史跡見学会報告

津山城下の史跡を訪ねて(城東編) 3

植栽ボランティア参加者募る!! 4

近光利樹さんからご寄附をいただきました

オムニバス講演会を開催しました

春季企画展を開催します

薬草の小径から④

編集後記

友の会企画イベント

拓本を楽しくむに参加して

会員 赤堀浩一

令和2年11月8日(日)、友の会企画イベント「拓本を楽しむ」に参加しました。歴史や史跡に興味があり、今回、拓本が実際に体験できるということで大変楽しみにしていました。参加者は8名でした。

まず、洋学資料館図書室で下山顧問から拓本用タンポの作り方を教わりました。自分で作ったタンポで拓本を実際に採れることに心弾ませながら、大小2個のタンポを作りました。



↑ 図書室でタンポ作り

墓所に到着すると、最初にお参りをしました →



下山顧問に採り方のコツを教えてください



次に、具体的な拓本を採る手順として、画仙紙の貼り付けからタンポの打ち込みの方法まででいいいな説明を受けました。

その後、各自で画仙紙とタンポを持って、洋学資料館の北東にある「箕作家墓所」に、実際に拓本体験をするために歩いて向かいました。現地に着くと、参加者が拓本体験する墓石をそれぞれ選んでさっそく体験イベントがスタートしました。

最初に正面の名前「箕作豊順可貞之墓」(阮甫の兄)の拓本を採りました。画仙紙が破れないように慎重にタンポを打ち込んでいくと、意外に鮮明に拓本が採れました。次に、墓石の側面の何と

書いてあるか見てもわからない文字の拓本に挑戦しました。タンポを打ち込んでいくと「文化七年庚午九月十三日」とはつきり画仙紙に浮き出て周りからも「おお！」と歓声が上がりました。最後に全員で採れた拓本を持って記念写真を撮り、楽しい拓本体験イベントが終了しました。

今回、初の拓本体験でしたが、ていねいな説明や指導をしていただき、満足出来る拓本も採れ、大変有意義なイベントでした。また、拓本と共に自作のタンポを持ち帰ることができましたので、私も含めて拓本に挑戦する参加者が多くありそうです。今回、拓本という新しい世界に触れることが出来、大変ありがたかったです。

第33回史跡見学会報告

津山城下の史跡を訪ねて（城東編）

会員 實平千代子

令和2年12月6日（日）、友の会の研修に参加しました。新型コロナウイルス危機で、今回は昼食なしで、正午までに近くの城東地区の史跡を歩いて訪ねることになりました。

枝垂桜で有名な曹洞宗 千光寺を訪ねました。東側の墓地に樽形の墓（山田家夫婦）と槍形の墓（本多監物重威）がありました。宝暦や慶応時代



大信寺山門 マスクをはずして記念撮影



千光寺 ご住職が案内してくださいました



津田真道生家跡

にこのアイディアと驚きました。さらに落ち葉を踏んで華岡門人で津山藩医の野間栄齋と渡邊貞順の墓にお参りしました。浄土宗 大信寺には、明治屋創業の磯野計がお兄さんと協力して建てた先祖代々墓と、隣地の母方 太田家の墓にもお参りました。
続いて上之町の津田真道が18歳になるまで過ごした屋敷跡を、解説板を見ながら道から見学しました。真道は幕末にオランダへ留学し、明治政府の官僚となった人です。
少し下がった所に、神伝流の普及者 植原六郎左衛門の屋敷跡がありました。以前は広場でしたが、家が建ったりして狭くなっていました。
それから上之町三丁目の川村三兄弟の生家跡へ。今は親戚の方が家を建てておられ、当時の面

影はしのびませんでした。川村清一はキノコ博士、川村多実二は小鳥の博士、養子となった福田邦三は医学博士で三兄弟とも学者でした。
次に津山洋学資料館西隣の、綺羅星のごとく学者を輩出している箕作阮甫旧宅へ。下山純正顧問が「礎石を基に、当時の町家風に復元したものですから、そのつもりでみてください」と言われ、当時を想像してみるのは、だいじなことだと思います。
最後に林田の丘にある箕作阮甫の父母兄等が眠る箕作家の墓所へお参りしました。解説板もあり、阮甫以降の方々のお墓は東京の多磨霊園と谷中霊園にあるそうです。
私は、初めて訪れた所があり、たくさん学ばせていただき、充実した一日でした。

見学コース

- ① 曹洞宗 松本山 千光寺（華岡門人 野間栄齋・渡邊貞順の墓、樽形の墓（山田家夫婦の墓）、槍形の墓（本多監物重威の墓））⇒② 浄土宗 証誠山 大信寺（磯野計建立 磯野家先祖累代の墓、磯野計の母方 太田家先祖代々の墓）⇒③ 城東地区に残る生家・屋敷跡（津田真道生家跡、植原六郎左衛門屋敷跡、川村三兄弟生家跡）⇒④箕作阮甫の生まれ育った屋敷 国指定史跡 箕作阮甫旧宅⇒⑤阮甫の父母兄が眠る箕作家墓所

植栽ボランティア参加者募る!! 今回は4月25日(日)午後1時30分〜(1時間程度)

前回の活動は、10月31日(土)に8名で行いました。毎回参加してくださる顔馴染みの方や、初めて参加してくださった方もいらっしやいました。「これは剪定する?」「これは刈り取ってもいいの?」など、予定時間を過ぎてても「もう少し」「せっかくだからここも綺麗にしましょう」と会話も弾みます。作業終了後には「綺麗になったね」と、みんな晴々と嬉しそうな笑顔になりました。



作業の様子

薬草の小径から

4



木瓜(ボケ) バラ科

中国原産で、春に赤や桃、白の花を咲かせ、観賞用として古くから植えられてきました。実を乾燥させた物を生薬モッカと呼び、薬用酒は疲労回復などに用いられます。

や生活道として利用されています。植栽ボランティアが友の会の有意義な活動として定着してきていることに、感謝と嬉しさを感じます。今年の冬は低温になることがあったため、金柑などの柑橘類の葉が枯れてしまったり、落葉樹の落ち葉も気になっています。寒い中でも梅は咲き、春間近です。次回の作業の時にはクリスマスローズをはじめ、綺麗な花が咲いているのではないかと楽しみにしています。ご都合のつく方はご参加ください。

近光利樹さんから

「ご寄附をいただきました」

会員の近光利樹さんから友の会へご寄附をいただきました。来年度の創立40周年記念事業など、活動に有効に活用させていただきます。誠にありがとうございます。

オムニバス講演会を開催しました 「病に向き合う医師たち」

1月31日(日)にオムニバス講演会が開催され、小島館長・田中学芸員・近都学芸員が日頃の研究成果を報告しました。コロナ禍で、約1年ぶりによく開催できた講演会で、友の会の方もたくさん来場されました。

春季企画展を開催します

資料が秘めた物語

〜洋学者がみた西洋文化〜

江戸時代の洋学者たちは、西洋から医学などの新しい学術を学ぶだけでなく、衣、食など様々な文化にも関心を持って記録を残しています。今回の企画展は、そんな洋学者たちの西洋文化への好奇心をテーマにご紹介します。

会期 令和3年3月13日(土)

〜6月13日(日)

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大も、緊急事態宣言からワクチン接種という新たなステージに移行してきました。会員の皆さまももう少しの辛抱です。

そういうことで、令和2年度の友の会活動は春の総会をはじめ、恒例事業の多くを中止や縮小せざるを得ませんでした。

しかし、そのような状況下にあっても、「友の会通信」を刊行したり、新企画「拓本を楽しむ」などを実施してきました。

また「史跡見学会」は例年のようなバスを使わず、洋学資料館周辺城東地区エリアの洋学史跡をウォーキングで巡りました。そうしたイベントをご報告するため、「友の会通信6号」をお届けします。(S)

津山洋学資料館友の会通信

第6号

令和3年2月

編集・発行

津山洋学資料館友の会

事務局 〒708-0833

津山市西新町5

津山洋学資料館内

☎ 0868-23-3324